

ノウサギの生態に関する研究(Ⅲ)

— 雌の性成熟期・妊娠期間・出産回数 —

鹿児島県林業試験場 谷口 明

我国に生育するノウサギ属 (*Lepus*) のうち、キュウシュウノウサギ (*L. brachyurus brachyurus* TEMMINCK) の個体の繁殖に関する報告は皆無である。

これは、ノウサギの飼育の困難さが大きく関与していると思われる。筆者は前報¹⁾で報告した様にキュウシュウノウサギの飼育に成功し、当飼育獣により、その繁殖状況について調査したので報告する。

調査材料

調査に供した動物は1976年6月から1977年5月にかけて野外で捕獲された雌5頭と1977年6月に飼育舎内で出生した雌1頭である。

野外で捕獲した動物は幼獣時を市販の牛乳で飼育¹⁾し、飼育舎内で出生した動物は母乳により育った個体である。なお、1977年3月までは3.2㎡の飼育舎でほぼ雌雄1頭ずつ、1977年4月からは77㎡の飼育舎で集団で飼育した。

結果と考察

雌の性成熟期

雌の性成熟期をとらえる方法として、ここでは出生から初産までの経過日数をもって推定した。出生から初産までの経過日数は牛乳で飼育した個体では推定ながら311～362日で、母乳で育った個体では286日であった(表-1)。母乳で育った個体は牛乳で飼育した個体に比べ性的に成熟する期間が短いと考えられる。

後述するが、交尾から出産までの期間を47日間とすると母乳で育った個体は生後239日目に交尾したと推定される。

すなわち、雌は生後約8ヶ月で性的に成熟するものと考えられる。

妊娠期間(交尾から出産まで)

ノウサギは繁殖の最盛期にはいと出産後ただちに交尾に移ることから、雌雄とも集団で飼育している飼育舎77㎡内で出産を確認した個体(出産直前の個体は毎日確認)はすでに交尾を済ましたものとみなし、ただちに飼育舎内に設けた隔離室(床面積1×2㎡、高さ1m)に出生児ごと移し、次期出産日まで隔離した。

この方法により交尾から出産までの日数をほぼ正確に把握できたのは2個体で3例であった。

なお、小さい隔離室で飼育することによる異常は本実験では母子とも全く生じなかった。

実験の詳細はつぎのとおりである。

0-2個体：1978年4月27日に出産を確認、ただちに隔離し、47日後の6月13日に次期出産を認めた。

T個体：1978年3月4日に初産を確認、ただちに隔離し、47日後の4月20日に2回目の出産を認めた。つぎに4月20日夕方に隔離を解き集団飼育舎内に放ち、4月21日の朝に再び隔離し、47日後の6月6日に3回目の出産を認めた。

以上3例より交尾から出産までの期間はほぼ47日間と考えられる。

ここで表-1をみると出産から次期出産までの日数が45日目が1回、46日目が3回、47日目が上記の3例を含め4回で、交尾から出産までの日数は45～47日と考えられる。但し、表中で出生児の体重の記入のしていない部分は、出生日が不確実であることからここでは除外して検討した。

馴化されたカイウサギ(*Oryctolagus cuniculus* var. *omesticus*)は、交尾による刺激により排卵が起こることが知られている。本種も交尾による刺激で排卵するものと思われ、精子の雌性生殖道内貯蔵が見られることも予測されることから真の妊娠期間については今後の研究で確かめたい。

エゾユキウサギ(*L. timidus* ainu BARRET-HAMILTON)の妊娠期間については、小林²⁾はカイウサギとエゾユキウサギの胎児の成長を対比させて、約40日と推定し、上田³⁾は飼育観察により42日ぐらいと推定している。

トウホクノウサギ(*L. b. angustidentis* HOLLISTER)の妊娠期間については、大津⁴⁾は交尾から出産までの日数の測定により42～43日、恐らく満42日と推定している。以上のことからキュウシュウノウサギの妊娠期間は、エゾユキウサギ、トウホクノウサギに比べ若干長いと思われる。

出産回数

表-1で初産から1年を経過した個体3頭をみると、1年間に5～6回の出産が認められている。大津⁵⁾はトウホクノウサギでは年3回以下で、普通1～2回と報告し、上田³⁾は、エゾユキウサギでは年1～2回

と報告しており、キュウシュウノウサギの出産回数は 両種に比し極めて多いといえる。

表-1 ノウサギの雌個体の出生から繁殖までの経過日数と出産経過

No	0 - 2		Q - 2		Q - 3		T		キ		3			
捕獲日	1976. 6. 16		1976. 7. 26		1976. 7. 26		1977. 4. 28		1977. 5. 24		——			
捕獲重日	136g		270g		310g		115g		136g		※ 2) 142g			
推定出生日	1976. 6. 15		1976. 7. 16		1976. 7. 16		1977. 4. 27		1977. 5. 23		※ 2) 1977. 6. 16			
出産日(出生児の体重と性別)と※1)経過日数	初産	1977. 6. 12 140g - ♀ 126g - ♂	日	1977. 6. 16 142g - ♀	日	1977. 7. 1 152g - ♀ 127g - ♂	日	1978. 3. 4 132g - ♀	日	1978. 3. 30 - ♀ - ♀	日	1978. 3. 29 150g - ♀	日	286
	2回	1977. 9. 23 172g - ♂	103	1977. 9. 24 130g - ♂	100	1977. 10. 2 173g - ♂	93	1978. 4. 20 155g - ♂	47	1978. 5. 15 148g - ♀ 134g - ♂	46	1978. 5. 13 124g - ♀ 122g - ♀	45	
	3回	1978. 1. 24 182g - ♂	123	1978. 1. 25 146g - ♂	123	1978. 1. 1 173g - ♀	91	1978. 6. 6 138g - ♀ 121g - ♀	47	1978. 8. 1 - ♀ - ♂	78	1978. 8. 30 113g - ♀	109	
	4回	1978. 3. 12 144g - ♂	47	1978. 3. 31 142g - ♀	55	1978. 2. 16 144g - ♂ 152g - ♀	46	1978. 9. 12 144g - ♂	98	1978. 9. 26 152g - ♀	56			
	5回	1978. 4. 27 130g - ♀ 147g - ♀	46	1978. 5. 16 119g - ♀ 127g - ♂	46	1978. 4. 3 - ♀ - ♀ - ♀ - ♂	46							
	6回	1978. 6. 13 142g - ♀ 135g - ♀	47	1978. 8. 10 154g - ♂	86	1978. 6. 15 142g - ♂ 122g - ♂ 110g - ♀	73							

注) ※1) 初産は出生日からの経過日数、2回目以降は出産から
 出産までの経過日数
 ※2) 出生時体重と出生日

ま と め

キュウシュウノウサギの雌は生後約8ヶ月で繁殖個体となると考えられる。
 交尾から出産までの期間は45~47日間と考えられる。
 出産回数は年5~6回をみとめた。

引用文献

- (1). 谷口 明: 日林九支研論, 31. 229. 1978
- (2). 小林 守: 野ネズミ, No.49. 6~10. 1962
- (3). 上田明一, 柴田義春, 山本時夫: 77回日林講, 330~ 332. 1966
- (4). 大津正英: 応動昆, 10. 84~88. 1966
- (5). " " 9. 79~82. 1965